# インクルーシブ・プレイグラウンドについて

## 活動報告書

みんなで
自由に
いつまでも!

一般社団法人
日本公園施設業協会 青年部

# は じ め に

海外では米国・香港・シンガポールを始めとして障害の有無に関わらず、すべての人々が楽しく安全に一緒に遊べる「インクルーシブ・プレイグラウンド」の整備が進んでいます。

国連の「子どもの権利条約」第31条では、すべての子どもが遊びに参加する権利を持っています。あらゆる子ども達が、身体的・感覚的・社会的な経験（遊び）を通じて一緒に学習できる「インクルーシブ・プレイグラウンド」は、子ども達の成長においても必要不可欠です。幼少期からすべての子ども達が同じ空間で一緒に遊ぶことは、障害を持つ人々への先入観や固定観念を持たない思いやりがある大人へ成長する第一歩になります。

ユニバーサルデザインに対応した遊具を設置するだけでは「インクルーシブ・プレイグラウンド」は作れません。身体的な障害に対してハード面での整備を行うだけでなく、自閉症などの発達障害や知的・認知・感覚障害など、多様なスペシャルニーズに対してソフト面でも配慮しながら公園全体を整備する必要があります。

公園に限らず、「インクルーシブな社会づくり」は世界中の全ての人々が取り組む必要がある大変重要なテーマです。

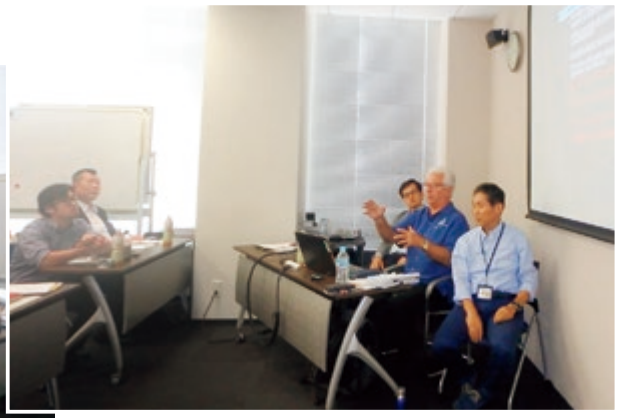
私達（一社）日本公園施設業協会青年部は2019年7月のシンガポールを訪問しての視察を始めとして、「インクルーシブ・プレイグラウンド」に関する視察・勉強会を開催し、調査を進めてきました。

本報告書はこれまでの活動を踏まえて、国内外の動向について私達ができる範囲で纏めております。一方で私達青年部も「インクルーシブ・プレイグラウンド」についてはまだまだ勉強中です。共に知識を深めて行ければ幸いです。

（一社）日本公園施設業協会
青年部
部長　髙尾 幸宏

# 勉強会の開催

2019年10月7日（月）に『みんなのための未来の遊び場“インクルーシブ・プレイグラウンド”基礎講座』と題し、NPO法人プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表の大坪龍太氏を通じてのシンガポール視察で親交を深めたケン クツカ氏を講師にお招きして、青年部として初めての勉強会を開催しました。ISO／TC83遊具部門の主要メンバーであるケン氏と直接交流ができる貴重な機会でもあり、29名が参加しました。



## ユニバーサルデザインとインクルーシブ

はじめにユニバーサルデザインが広がった背景が説明され、7原則、バリアフリーとの違い等を改めて確認しました。その概念に沿った遊具ができてもそこに辿り着くまでのアクセスが不十分であったり、子どもの障害のレベルによっては簡単にアプローチできない等の問題があったり、本当の意味でのユニバーサルデザインとは言えない状況でした。誰もが障害の有無を問わず、対等に遊びに参加できる環境作りを目指すことがインクルーシブの始まりだったようです。

## インクルーシブな遊び場作りが成功するために

インクルーシブデザインには ①社会的に魅力的なバリアフリーの環境作り ②予測可能なプレイ動作をサポートする発達的に異なるプレイエリア ③運動、感覚、経験の多様性 ④多くの緩い操作部品と天然素材 ⑤自律的な機会または仲間と一緒にプレイする ⑥体験する高さを提供する ⑦半閉鎖スペースを提供する ⑧厳しくてやりがいのある遊び場 という8原則があることの説明を受けた上で、ケン氏から成功するための6つのステップを教わりました。

1つ目は委員会を作ること、2つ目はできるだけ多くの意見を取ること、3つ目は高さのある遊具、4つ目はかっこいいメインとなる遊具、5つ目は今まで起きたことの反省、6つ目は公園のその他施設との関連性です。インクルーシブな遊び場作りには遊具はもちろん、地域住民（利用者）参加型であること、障害の有無にかかわらず子ども達が交流できること、誰もが対等に尊重し合えることがまず第一歩というわけです。

## 勉強会を通して

シンガポールでのインクルーシブ・プレイグラウンド視察から今回の勉強会を通して、インクルーシブな考え方の骨格が見えてきたような気がしました。

ユニバーサルデザインはハード、インクルーシブデザインはソフトであり自発的に遊び場について考えさせることが大きなポイントです。

### ケン クツカ 氏

CPSI（遊び場安全検査官）でIPSI（国際遊び場安全研究所）の最高責任者

NRPA（国際レクリエーション公園協会）の元会長で米国プレイ連合の創立メンバー

30年以上に渡りイリノイ州ウィートンパーク地区で公園設計管理に携わったクツカ氏は、NRPAを代表して最新の遊び場の安全トレーニング・認証を行う責任者として世界中で活動中。

### 大坪 龍太 氏

プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表

東京ケーブルネットワーク株式会社代表取締役社長（ニューヨーク大学レジャーマネジメント学科修士課程修了）

1990年代初頭に企業留学にてニューヨークで子どもの遊び場の安全について学ぶ。帰国後は子どもの安全安心と公園を通じた街づくりのNPOを立ち上げ、国の安全指針作りや自治体の委員を務める。

# 海外視察報告
## in シンガポール

### ジュロンレイクガーデン

自然が豊かな空間の中にある遊具空間。天然素材を多用することで景観と調和したインクルーシブな遊び場であり、その中に様々な遊具が点在している。大きな遊具を置くことで発生する「身体が動く子どもが主役になり障害のある子どもが遊びづらい」ということを回避するべく遊具、遊び要素を点在させていることがポイントと言える。

1 天然の木をふんだんに使った遊具。鳥の巣状の部分は内部に空間があり、精神疾患のある子どもにとっては休憩場所としても機能する。 2 樹脂成形品によるトランポリン。地面とほぼ同じレベルに設置されることで年齢を問わず遊ぶことができる。小さな形状で様々な場所にあり、同時に使うことのできる人数を意図的に制限することで身体能力の差で遊べない子どもがでてこないようにしている。 3 地面より上の部分が回転する遊具。車椅子に乗ったまま使うことができる。車椅子以外の子どもが遊べるスペースもあるため交流を生みやすい構造。 4 車椅子のまま乗れるブランコ。上部よりロープが垂れており、車椅子に乗ったまま一人で漕ぐことが可能。

インクルーシブな遊び場の草分けとして生まれた空間であり、試行錯誤の後が垣間見える。特に障害のある子どもが遊べるようにしつつ、それに特化するだけでなく健常な子どもとも遊びを通して自然に交流できるように複数人で遊ぶように配慮されている。結果として比較的小さい子どもに向けた遊具が揃っている空間となっており床面も砂地かゴムチップ舗装となっている。

### ビシャン AMKパーク

1 車椅子のまま乗れるブランコ。重量があるため安全のため柵が設けられ、利用方法については写真付きで解説されている。 2 車椅子のまま入っていける回転遊具。様々な形状のパーツがあることで子どもが外側からも遊び、内部にいる子どもとコミュニケーションするよう設計されている。 3 身体能力によらず遊ぶことができるパネル遊具。音を奏でる遊具もあれば、文字や形で遊ぶこともできる知育遊具としての側面も持つ。 4 自身の力で姿勢保持が難しい子どもでも遊べるように配慮された座部になっているブランコ。二つ並んでいることで同時に使いコミュニケーションをとることに繋がる。

## アドミラルティパーク

アドミラルティパークは、シンガポール北部ウッドランズにある北部最大の公園です。広大な敷地の中に大小26の滑り台があり、その数はシンガポール最多。敷地面積が27ヘクタールもあり、シンガポールでも最大級の国立公園です。

1 児童用滑り台ゾーン。大人でもスリルを感じるほど高低差のある大型チューブ型滑り台、エリア全体の傾斜に多くの滑り台が設置されている。　2 車いすでも使用できるブランコ。子ども数人で使用することも可能、安全柵を設置し動線も制限されており、接触事故予防など安全対策がされている。　3 幼児用ゾーン。半球の小山のような物が多く設置されている。低い滑り台も多くあり、小さい子どもでも楽しめる。敷地も広いので自由に動き回る場にもなっている。

## マリーナコーブパーク

海岸沿いにある大きな公園で幅約16キロもあるビーチ沿いの公園です。ビーチ沿いにレストラン、カフェ、バーなどがありサイクリングやウォータースポーツ等も楽しめるローカルにも人気な公園です。

1 幼児から児童まで遊べる遊具エリア。遊具のまわりはゴムチップで舗装されており、子どもたちの落下や転倒による怪我のリスクを軽減し子どもたちが安心して遊べるエリアになっている。　2 スツール。あらゆる状態の子どもでも使用しやすくなっている。基本的にエリアの出入りの段差がなく、車いすでも容易にアクセスしやすくなっている。　3 波型のはしごや音と光で遊ぶ遊具。あらゆる子どもが遊べるエリア。　4 音で遊ぶ遊具。日陰を作り直射日光を避け、暑さの対策もされている。

# JPFA本部を含めた勉強会の開催

JPFA青年部は2021年度の事業活動として“みんなの公園 インクルーシブ・プレイグラウンド勉強会”を2022年4月12日（火）に開催致しました。国内にもインクルーシブ・プレイグラウンドが完成して注目が集まる中、公園遊具に携わる者としてどのように理解し関わっていくのか関心が高く、約250名の参加者が集まりました。　（コロナ禍のためオンライン開催）

## これからのインクルーシブな遊び場

みーんなの公園プロジェクト代表　柳田 宏治氏より『これからのインクルーシブな遊び場 ――さらにみんなの公園へ』と題した基調講演をいただきました。柳田氏からは『遊び』を保障することの重要性、インクルーシブな遊び場作りのキーポイント、これからの日本の動向等多くの情報を共有していただきました。国内向けに分かり易いお話で、参加者が熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。

## リスクアセスメントの重要性

さらに特別講演として２名の講師をお迎えしました。プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク代表の大坪 龍太氏からは世界のインクルーシブ・プレイグラウンド事情を、当協会副会長兼規準委員長の丸山 智正氏からはインクルーシブ・プレイグラウンドと安全規準についてご講演いただき、共通していたのは『リスクの大切さ』でベネフィット・リスクアセスメント（＝受容できる危険性なのかを判断すること）がインクルーシブ・プレイグラウンドを導入するにあたり重要なポイントだということでした。

『インクルーシブという言葉は知っているけど中身は分からない』という参加者がほとんどで、今回の勉強会はそんな不安や悩みを少しだけ解消できる手助けができたような気がしてます。

### 柳田 宏治 氏

みーんなの公園プロジェクト代表
倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科教授

家電メーカーのデザイナーを経て2004年より現職。1994～96年に米国にてユニバーサルデザインの動向を調査したのち、国内で普及活動を行う。著書に「すべての子どもに遊びを ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド」（萌文社 2017）など

### 勉強会に参加して

有限会社サンブリッチ東北（東北支部）　菊池 栄宏

インクルーシブとは何かというところからのスタートでした。

この勉強会に参加し、公園の在り方について深く考えさせられました。遊びから遠ざかるのではなく、インクルーシブな遊具を通じみんなが一緒に楽しく遊べる公園を目指し、そして人や地域を繋げていきたい。

### 勉強会に参加して

快工房株式会社（関東甲信越支部）　時岡 咲子

専門家や海外の事例を通して、子どもがともに遊び育ち合える公園づくりに向かって、どのように取り組んでいくことが必要なのか、視点をわかりやすく説明していただきました。これからもJPFAのメンバーとともに学び、多様な意識に基づく心のユニバーサルデザインを発信していきたいです。有意義な勉強会をありがとうございました。

### 勉強会に参加して

株式会社ホートクエクシン（中部支部）　宮原　淳

インクルーシブ・プレイグラウンドをつくるためには、今ある遊具をインクルーシブな遊具に変えるだけでなく、公園全体をアクセシビリティな環境にすることが特に重要だと感じました。

インクルーシブな遊び場の考え方に大変共感しましたので、遊具に関わる者として、すべての子どもが一緒に遊ぶことができる場所・機会が一つでも多く設けられるよう努めていきたいと思います。

### 遊具の価値を認識し合う必要性

内田工業株式会社（中部支部）　原　昌之

インクルーシブな遊具の開発において、新たに生まれるリスクとどう向き合うかが課題であった。海外の事例を見ると、ベネフィットが大きい遊具ほど、リスクを許容している様子。許容できるリスクは国の文化によって異なる。国内でも改めて、遊具の価値を認識し合う必要性があると感じた。

# おわりに

## インクルーシブ・プレイグラウンドってなんだろう

JPFA青年部では2019年よりインクルーシブ・プレイグラウンドについての調査研究を、シンガポール視察、外部講師の方との勉強会等を行ってきました。

これまでの調査研究を基に、インクルーシブ・プレイグランドについての考え方を、現時点での青年部の一つの意見として以下の通りまとめさせていただきました。

インクルーシブ・プレイグラウンドとは、障害の有無などに関わらず、あらゆる子ども達が同じ空間で、安全かつ快適に、遊びを通じて交流し、多様な関係性を学び、お互いの在り方に気付く事ができるような【空間・環境】を示します。

その中には、これまでJPFAが持つ「あそび空間の考え方」「安全・安心の確保を目的とした安全規準」が加味された遊具が配置されることで、最終的に子ども達が、自分達の個々の能力や興味に合わせて、自由に遊び・学び・コミュニケーションし、成長する機会を得られる場所になると考えます。

「インクルーシブ遊具」とよく呼ばれますが、インクルーシブとは、多様性を認め合い共生する社会を構築しようとする【考え方】や、それに取組むための【方法や戦略】ですので、そのような遊具・物というとらえ方はしないと考えます。

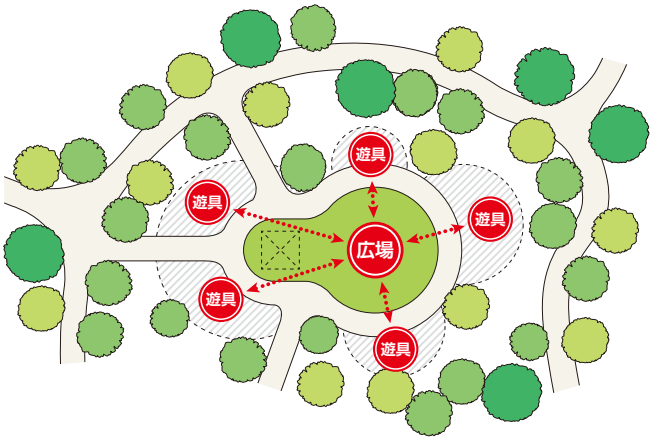
インクルーシブ・プレイグラウンドを構成する遊具は、ユニバーサルデザインによる遊具であり、子ども達個々の多様な知能・能力・興味を楽しく伸ばすことのできる、様々な遊具の組合せになると考えます。遊具間を移動する導線も重要であり、この導線の中に子どもを見守る大人の休憩施設を設けることで、大人同士のコミュニケーションが生まれ、その子ども同士も一緒に遊ぶキッカケを作ることができます。遊具だけでなく、休憩施設、ベンチ、水飲み場、植栽、芝生広場等、様々な物の組合せでインクルーシブ・プレイグラウンドが作られることになると考えます。

❶ インクルーシブと銘打った遊具の開発を目的としない。
❷ ユニバーサルデザイン遊具を採用し、それらを緻密に配置・計画する事で、あらゆる子どもが同じ空間で、楽しさ・辛さ・学びを体験し、相互の存在を理解しあう「気付き」に導くことを理想とする。
❸ あらゆる子どもが、遊びを通じて自己の成長や楽しさを感じ、コミュニケーションが生まれやすい空間、お互いを思いやれる環境整備を目指す。
❹ 創作・検討は「個々の遊具➡空間・環境作り➡社会好変化への寄与」という順序で具現化し、インクルーシブ・プレイグラウンドとして目指していく。

健常者・障害のある人の有無の認識、その配慮を必要とする人・配慮をすべき人をお互いに認識し、認め合い、それを知り、学ぶ事で全ての人が優しくなれる【空間・環境】を創造していく事が、インクルーシブであるとJPFA青年部は考えます。

インクルーシブ・プレイグラウンドは、子ども達の発達にプラスの影響を与え、社会における包括的な考え方を促進する場所として、コミュニティにとって非常に重要な存在です。

都市公園におけるインクルーシブ空間・環境整備には、計画段階から自治体、管理者、利用者、設計・メーカー等企業といったステークホルダーが情報を共有し、対話するところから始め、誰がどのように利用していくのか、またどのように管理・運営していくのかを考慮し、地域住民と一緒に作り上げていくプロセスが大切であると考えます。このプロセスが思いやりのある地域・社会づくりにつながるのではないでしょうか。



**一般社団法人 日本公園施設業協会** 青年部

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
TEL.03-3297-0905　FAX.03-3297-0906
公式Webサイト **https://www.jpfa.or.jp/**

2024.2